

藤沢市遠藤地区ボランティアセンターとの 交流研修会について

焼けつくような暑さの平成30年7月11日(水)午前10時から愛川町福祉センターにて藤沢市遠藤地区ボランティアセンター「シェークハンズ遠藤」の方33名を迎え、愛川町ボランティア連絡協議会と町内高齢者サロンボランティア等を加えての55名で交流研修会が行われました。

遠藤地区は、藤沢市東部に位置し市の中心部より外れて畑、田んぼ、工業地帯等があり、ここ愛川町と住環境が似ているとのことで交流研修の申し込みがあったものです。遠藤地区ボランティアセンターの活動は、日常の生活支援やサロン活動(居場所づくり)を主として活動を行っているとの紹介でした。

愛川町に対しての質問は「支援会員の募

集方法・利用会員の集め方」や「お年寄りが寄ってみたいくなるような場所にする工夫は？」更には「運営上の苦勞や、社協とのかかわり方は？」等々の質問があり、これに対して愛川町側からは、ボランティア連絡協議会の構成組織や個々の活動内容に加えて、高齢者サロンの活動状況について用意した資料により説明を行いました。

双方ともボランティア構成員の高齢化に伴う減員や新規加入会員の不足など共通の悩みも明らかになり、ボランティア活動の継続が課題の認識も共有できましたが、自分たちの老後の楽しみのためにも続けることが大事なのだ実感した交流でした。

かえでの会 五味 潤 アイ子

10月19日(金) 第67回神奈川県社会福祉大会受賞者 (敬称略)
神奈川県社会福祉協議会 会長感謝

愛川町食生活改善推進団体味彩会 小島 多美子



10月27日(土) 第37回愛川町社会福祉大会受賞者
愛川町福祉表彰・福祉功勞表彰

愛川町食生活改善推進団体味彩会 栗山 幸子
あしボ 小島 昭吾

愛川町社会福祉協議会長表彰・善行者感謝

傾聴ボランティアグループ なごみ【団体】
愛川町食生活改善推進団体味彩会 尾崎 照代
愛川町録音ボランティアグループかえでの会 田中 由美子
あしボ 石川 文雄



平成30年度受賞者

編集後記

平成元年に発足した愛川町ボランティア連絡協議会が30年の節目を迎えました。当初より力を注いで下さった先輩の方々に思いを馳せる時、築き上げ、積み重ねた年月の重さをひしひしと感じます。平成から新しい時代へと変わりますが、共助「お互いさま」の思いやりの気持ちを日々大切に持ち続け、ボランティアの輪を更に広げていくことが会を支えて下さった方々の意に答えるということ、そして、日頃の活動が特別なことではなく、日常の生活の一部にごく自然に織りこんでいけたらと思いを強くしています。 味彩会 甘利 弘子

愛川ボラ連だより

創立30周年記念号

第13号 平成31年1月発行
愛川町ボランティア連絡協議会
愛川町角田257番地の1
(町社会福祉協議会内)
☎ 046-285-2111

ボランティアに興味のある方・活動中の方、どなたでも参加できます！
平成最後のボランティアのつどい

2/9
土

会場：愛川町福祉センター会議室等
時間：9時30分～12時30分



昨年度の
会場雰囲気



現在活動しているボランティア等が日頃の活動を通じて感じていること、考えていることを持ち寄って課題を整理し、ボランティア利用者や地域にとっても有効な活動を展開する場とします。

★★★★ プログラム ★★★★★
開会(9時30分)

福祉センター3階 会議室	オリエンテーション	進行・説明
ワークショップ(9時45分～12時30分)		
第1会場	第1・2 会議室 老人娯楽室	講演・パネルディスカッション 「ボランティア活動の将来像を考える・ 私たちの取り組むべき課題」 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 ボランティア連絡協議会加入団体
第2会場	2階調理室	ボランティアグループ活動紹介・体験 愛川町食生活改善推進団体 「味彩会」
第3会場	第3会議室 3階ホール	町内障がい者施設等 製品展示・即売会 愛川町ありんこ作業所 愛川町ありんこ作業所保護者会 NPO法人 あいかわ工房 フリースペースグリーン NPO法人地域生活支援の会・あい
		ボランティアグループ活動紹介展示 ボランティア連絡協議会加入団体

参加を希望される方は、電話、FAX 又はメールで2月6日(水)までにご連絡ください。
☎ 285-2111 内線 3794 FAX 286-5424 メール: aishakyo@shakyo-aikawa-kanagawa.jp

第37回 ふれあい広場

9月8日“町民一人ひとりが、「ともに生きる仲間である」との認識を深めること”をめざし『友情の輪を広げて』をテーマに、ふれあい広場が田代運動公園で開催されました。

毎年暑い盛りに行われ、とりわけ今年は日本全国が「猛暑」とさらには大型台風が続けて来てどうなるかと思われましたが、当日は雨の心配がないかわりに時折突風が吹き書類やシートが飛ばされるような状況でした。

ふれあい広場では愛川町ボランティア連絡協議会（ボラ連）の加盟8団体が各種ゲームや模擬店の運営、視覚障がい者の介助など、役割を分担しました。各種ゲームは広い野球場内に各参画団体が17種目を展開し、中央広場には日発太鼓、模擬店は豚汁、かき氷、ポップコーンなどを実施しました。

各種交流ゲームは老若男女の多くの参加



者の中で特に子供たちに興味を引き起こすよう工夫、紹介、呼び込みをし、それぞれが満足をしてもらうべく汗を流しました。

その中で「なごみ」は缶つまみ・かき氷・ポップコーンをあしボの方たちのもとで担当しました。缶つまみは風の影響もあり少し荒れ気味でしたが、幼児から小学生まで歓声と落胆で大いに盛り上がりました。

中央広場では暑いさなかの勇壮な日発太鼓演奏、大行列の豚汁、最後の最後まで行列のたえなかつたかき氷と模擬店もそれぞれ大盛況でした。

風の影響は多少あったものの子供らの歓声と童心にかえった大人たちで大いに盛り上がりを見せ、楽しんだ一日でした。

傾聴ボランティアグループ なごみ 梅澤 弘見



大人も子供も夢中になって缶つまみを！

10/5 横浜ラポールに研修視察

今年度の研修は、10月5日（金）横浜市障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」へ行って来ました。台風の影響で天気が心配されましたが、帰りに小雨が降る程度でした。この施設は1992年（平成4年）8月28日にスポーツ・文化・レクリエーション活動等を通じて、障がい者やその介護者その他の市民相互の交流を図るために設置されました。

地下1階にはアーチェリーやバウンドテニス、視覚障がい者ランニング誘導マシンが設置された1周160mのトラックとフィールド。1階にはプールや機器を使ってトレーニングできるフィットネスルーム、スポーツ大会などが開催されるメインアリーナでは卓球に挑戦されている方で賑わっていました。

2階には音声の誘導装置や点字得点表示装置などを備えたボウリングルーム、創作工房では車椅子の方でも料理ができるようにレンジや流し台の高さが調節できる調理室、3階には聴覚障がい者情報提供施設や発達に心配のあるお子様も利用できるおもちゃ図書館など・昨年には開設以来の利用延人数が1000万人を突破されたそうです。

利用されている方々のがんばる姿に感動し、重要な施設であることを改めて実感いたしました。大変に有意義な一日を過ごさせていただきました。

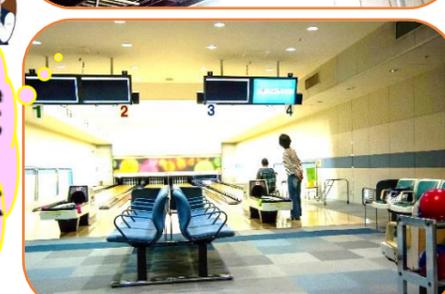
あいかわ町災害ボランティアネットワーク 岸上 敦子



横浜ラポール 館内説明



ランニング 誘導マシン



ボウリング ルーム



おもちゃ 図書館

10/21 福祉のひろば①
（ふるさとまつり協賛事業）
わいわいスペース



室内では
・ボラ連登録団体の活動内容掲示
・スタンプラリーの受付
・フォトスポット等



福祉のひろば② わいわいスペース

- ・屋外ではイベントコーナー（クイズ・ゲーム等）
- ・遊びコーナー（スマートボール・スカットボール）
- ・模擬店コーナー（チュロス・けんちんそば等）
- ・東日本大震災復興支援コーナー
- ・軽音楽のステージライブ!! 等



愛川町ボラ連創立30周年によせて



愛川町ボランティア連絡協議会 会長 井上 桂

愛川町ボランティア連絡協議会が創立30年を迎えることができました。これもひとえに町民の皆様、愛川町当局、愛川町社会福祉協議会の役員、事務局の皆様のご支援の賜と思えます。ありがとうございました。勿論、加盟団体の会員、役員の皆様のご努力があったということは言うまでもありません。

この30年間を振り返って、続けられた要因は何かなど考えてみました。団体が活動していく上で大事な点は「人、物、お金」であるとしばしば言われます。人とは、会員、支援者、協力者等。物とは、活動を続ける上で必要な用具、備品等。お金とは財源であり、会費、助成金、謝金、寄付金等。どれも大切な要素であり、各団体はこれらを集めたり、維持したり、増やす努力と工夫を常にしています。

そして、更に大切な要素とは何でしょうか。それは、技術、知識、場所、ネットワーク等で、今、特に重要なのがネットワークであると思えます。まさに、愛川町ボランティア連絡協議会がそのネットワークなのです。

実は、この協議会を立ち上げるには、数年かかったと記憶しています。当初は、自分たちの団体を維持するのも大変なのに、それを上回る大きな団体が必要なのか、維持できるのかという議論があり、反対意見も出ていたのです。そうした中、初代熊坂会長の説得や町社協事務局の方々のご支援もあり、設立することができました。

その後は、ふれあい広場、ボランティアのつどい、ふるさとまつり等の諸行事を通して、仲間としての連帯感や深まりも出来て今日に至っています。一人、一団体では不可能な事も、ネットワークを持っていることで可能になることも沢山あったのです。私のボランティア活動の中でも大きな柱になっている愛川町ボランティア連絡協議会、会員の皆様との連携を大切にしながら、町民の皆様のお役に立てるよう、これからも活動を続けていきたいと心新たにしています。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

愛川町ボランティア連絡協議会設立当時の写真



愛川町ボランティア連絡協議会 設立総会 (愛川町福祉センター)



昭和60年ごろより、町で活動していた9グループの代表者が集まり、ボランティアの会をつくろうと話し合いを始めて結成されました。



ボランティアのつどい
農村環境改善センターにて
ふれあい広場開催



愛川町ボランティア連絡協議会加盟団体の紹介です

愛川町食生活改善推進団体 『味彩会』



男性の為の料理講習会



厨房にて奮闘中

愛川町録音ボランティアグループ 『かえでの会』

視覚障がい者に「広報あいかわ」「お茶の間通信」「議会だより」「かえで雑誌 虹」などをCDに録音して送っています。



愛川レクリエーションクラブ

心の元気がいい
健康寿命延伸



マジック愛川クラブ



ふるさとまつり
文化芸術発表会にて

マジック披露のボランティアを続けて35年目です!



連絡先: 社会福祉法人 愛川町社会福祉協議会

☎ 046-285-2111 (内線3794) FAX 046-286-5424



愛川国際交流クラブ



日本舞踊体験

体験型の交流を通して
異文化を知る活動を行
っています。

遊びに来て頂ける方、
大歓迎です!

男手を社会に 活かそう!



あ

し

ボ

傾聴ボランティア なごみ



町内の特別養護老人ホーム・グループホーム・北部病院などの各施設で入所者の方々に寄り添い思いを聴き取ることを目的に活動しています。

あいかわ町災害ボランティアネットワーク

生き延びなければ
何も始まらない



自分の命は
自分で守る